

I. 山口大学における男女共同参画の現状に関する統計的分析

A. 山口大学における女性教職員・学生数の現況

〈表A-1〉 俸給表別在職状況

2001年5月1日現在
(単位：人，%)

		計	男性	女性	女性比率
教員職(一) (指定職を含む)	教員	885	797	88	9.9
	教務職員	10	6	4	40.0
教員職(二)	教諭等	106	77	29	27.4
行政職(一)	一般職員	431	332	99	23.0
行政職(二)	技能・労務職員	24	20	4	16.7
医療職(二)	薬剤師等	73	37	36	49.3
医療職(三)	看護職員	382	8	374	97.9
合計		1911	1277	634	44.0

山口大学における教員（教授、助教授、講師、助手）の女性比率は9.9%と低い。

〈表A-2〉 教育職(一) 教員の在職状況内訳

2001年5月1日現在
(単位：人，%)

	計	男性	女性	女性比率	2000年度国立大学 平均女性比率
学長	1	1	0	0.0	0.0
副学長	(2)	(2)	0	0.0	0.0
教授	324	311	13	4.0	4.1
助教授	247	228	19	7.7	7.9
講師	107	85	22	20.6	11.8
小計	679	625	54	8.0	—
助手	207	173	34	16.4	13.0
計	886	798	88	9.9	6.6

特に、助教授（7.7%）、教授（4.0%）と職階が上になるほど女性教員比率が低下している。また、2000年度の国立大学の平均女性教員比率と比較した時、山口大学の顕著な特徴は、助教授、教授といった上位職階の比率は国立大学平均より低い（国立大学はそれぞれ、7.9%、4.1%）のに対し、講師、助手の下位職階ではそれぞれ20.6%（国立大学11.8%）、16.4%（同13.0%）と高くなっている点である。

〈表A-3〉 非常勤講師の人数及び女性比率

2001年5月1日現在
(単位：人、%)

	男 性	女 性	計	女性比率
本務校をもつ専任教員から	179	13	192	6.8
教員以外から				
本務を別にもつ者*	171	18	189	9.5
本務をもたない者**	71	33	104	31.7
計	421	64	485	13.2

* 企業、国立私立
研究機関、予備
校その他の機関
の常勤の勤務者
** 勤務先がすべ
て非常勤の者

非常勤講師の女性比率を見ると、本務校を持つ専任教員からの非常勤講師は6.8%、本務を別にもつ者が9.5%にすぎないのに対し、本務をもたない者は31.7%にものぼり、これは女性非常勤講師の就業形態の不安定性を示唆する。

〈表A-4〉 採用・昇任などの異動*

2001年5月1日現在
(単位：人、%)

任用形態	異動後の職名	男 性	女 性	計	女性比率
採用・転入**	教授	8	3	11	27.3
	助教授	11	2	13	15.4
	講師(常勤)	9	7	16	43.8
	助手	28	12	40	30.0
	小計	56	24	80	30.0
学内昇任***	教授	13	0	13	0.0
	助教授	14	4	18	22.2
	講師(常勤)	13	5	18	27.8
	小計	96	33	129	25.6

* 2000年5月1日から2001年4月30日までの変動

** 他機関からの昇任・転任を含む。

*** 学内者であっても、技官や非常勤教員など本務教員以外からの異動の場合は採用にカウントされる。

女性教員の昇任の状況は、〈A-2〉と同様に、職階が上位にいくほど女性教員の昇任の比率は低く、教授への昇任にいたっては女性比率は0.0%である。

〈表A-5〉 教育職(二) 教諭等の在職状況内訳

2001年5月1日現在
(単位：人、%)

	計 算	男 性	女 性	
教 諭	26	15	11	42.3
養 護 教 諭	1	0	1	100.0
計	27	15	12	44.4

〈表A—6〉 教員の部局別人数及び女性比率

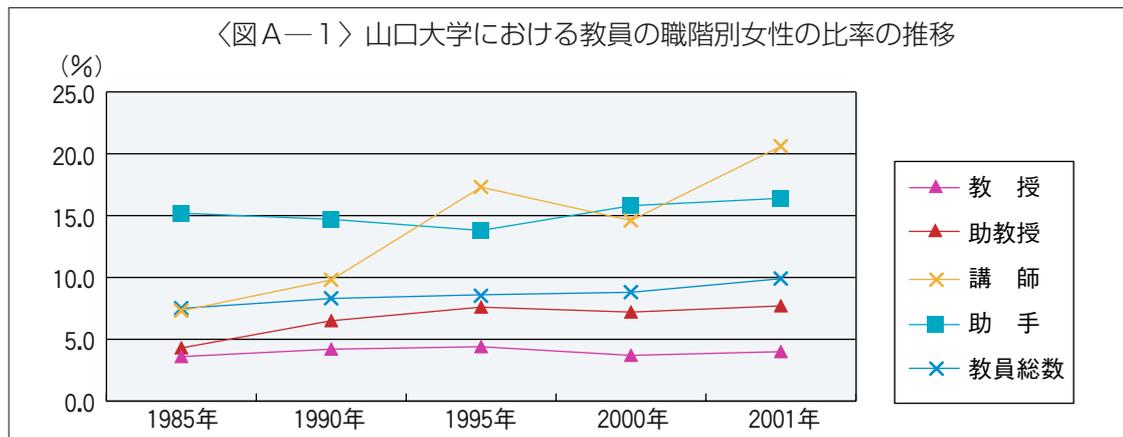
2001年5月1日現在
赤字は女性で内数である。(単位：人、%)

	教授	助教授	講師	助手	計	女性の比率	女性の比率 (助手を除く)
人文学部	27 1	21 2	7 2	2 0	57 5	8.8	9.1
教育学部(本校)	54 3	44 6	16 3	2 1	116 13	11.2	10.5
経済学部	30 0	25 1	12 4	5 4	72 9	12.5	7.5
理学部	40 0	25 2	1 0	16 3	82 5	6.1	3.1
医学部	50 9	31 4	23 10	66 17	170 40	23.5	22.1
工学部	76 0	60 3	12 1	48 2	196 6	3.1	2.7
農学部	32 0	22 1	1 0	9 0	64 1	1.6	1.6
東アジア研究科	2 0	2 0	0 0	0 0	4 0	0.0	0.0
医研究科	5 0	4 0	1 0	3 1	13 1	7.7	0.0
連合獣医学研究科	1 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0.0	0.0
医療短大	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.0	0.0
地域共同開発センター	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	0.0	0.0
機器分析センター	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	0.0	0.0
遺伝子実験施設	0 0	1 0	0 0	1 0	2 0	0.0	0.0
総合情報処理センター	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	0.0	0.0
アドミッションセンター	2 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0.0	0.0
合計	319 13	239 19	73 20	152 28	780 80	10.3	8.3
女性の率	4.1	8.0	27.4	19.7	10.5	0.0	0.0

教員の部局別女性比率は、文科系の学部比べて理工系の学部の低さが顕著である。

〈図A-1〉 山口大学における教員の職階別女性の人数及び比率の推移 2001年5月1日現在
(単位：人、%)

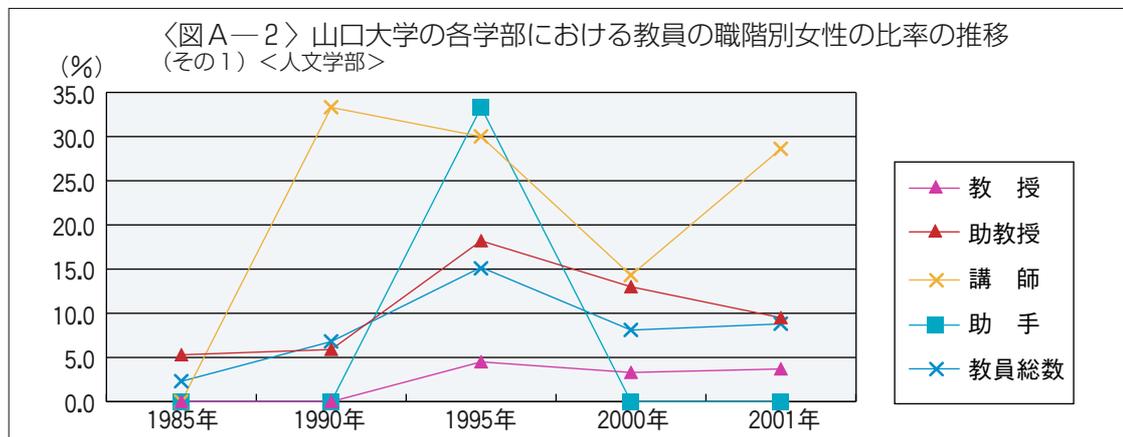
	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教 授	9 (3.6)	11 (4.2)	13 (4.4)	12 (3.7)	13 (4.0)
助 教 授	9 (4.3)	14 (6.5)	17 (7.6)	18 (7.2)	19 (7.7)
講 師	7 (7.3)	9 (9.8)	13 (17.3)	14 (14.6)	22 (20.6)
助 手	32 (15.2)	31 (14.7)	22 (13.8)	34 (15.8)	34 (16.4)
教員総数	57 (7.5)	65 (8.3)	65 (8.6)	78 (8.8)	88 (9.9)



女性教員の比率の推移を見ると、1985年には7.5%であったのが2001年には9.9%と若干の上昇は見られるが、講師の同期間7.3%から20.6%の上昇が目目を引く以外は、助教授（同期間4.3%から7.7%）、教授（同期間3.6%から4.0%）といった上位職階では、この16年間の比率の上昇はごくわずかにとどまっている。

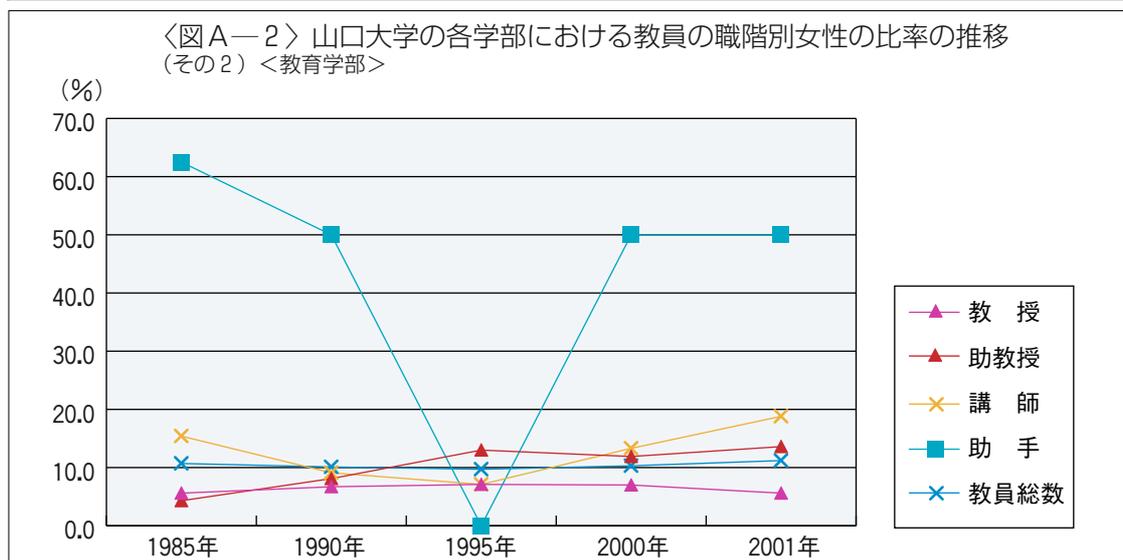
〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移 2001年5月1日現在
(その1) <人文学部> (単位：人、%)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教 授	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	1 (3.3)	1 (3.7)
助 教 授	1 (5.3)	1 (5.9)	2 (18.2)	3 (13.0)	2 (9.5)
講 師	0 (0.0)	2 (33.3)	3 (30.0)	1 (14.3)	2 (28.6)
助 手	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
教員総数	1 (2.3)	3 (6.8)	7 (15.2)	5 (8.1)	5 (8.8)



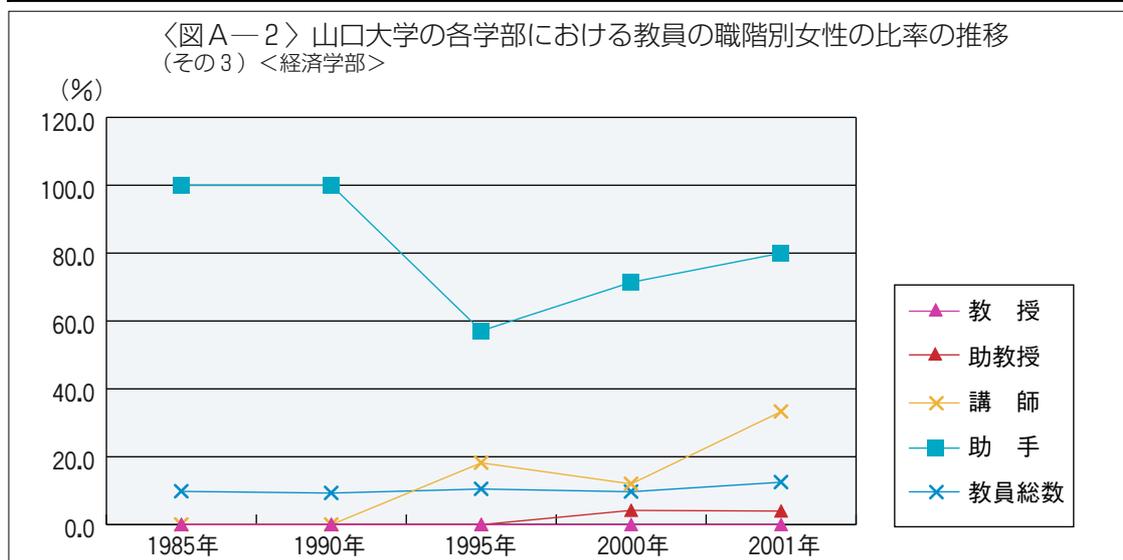
〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その2) <教育学部> (単位:人, %)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教 授	2 (5.6)	3 (6.7)	3 (7.1)	4 (7.0)	3 (5.6)
助 教 授	2 (4.3)	3 (8.1)	6 (13.0)	5 (11.9)	6 (13.6)
講 師	2 (15.4)	1 (9.1)	1 (7.1)	2 (13.3)	3 (18.8)
助 手	5 (62.5)	3 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)
教員総数	11 (10.7)	10 (10.1)	10 (9.7)	12 (10.3)	13 (11.2)



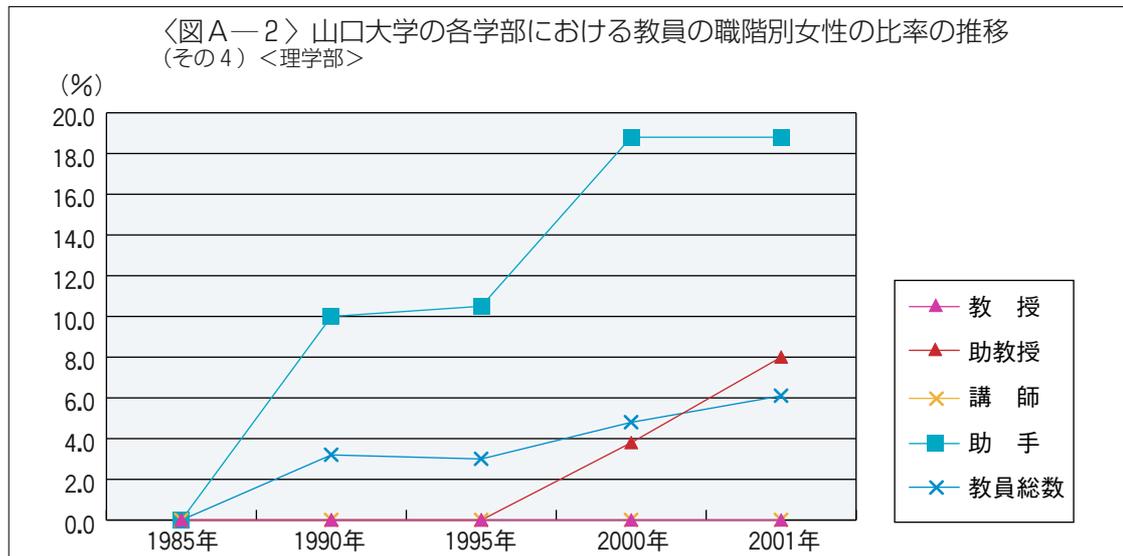
〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その3) <経済学部> (単位:人, %)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教 授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助 教 授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	1 (4.0)
講 師	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	1 (12.5)	4 (33.3)
助 手	4 (100.0)	4 (100.0)	4 (57.1)	5 (71.4)	4 (80.0)
教員総数	4 (9.8)	4 (9.3)	6 (10.5)	7 (9.7)	9 (12.5)



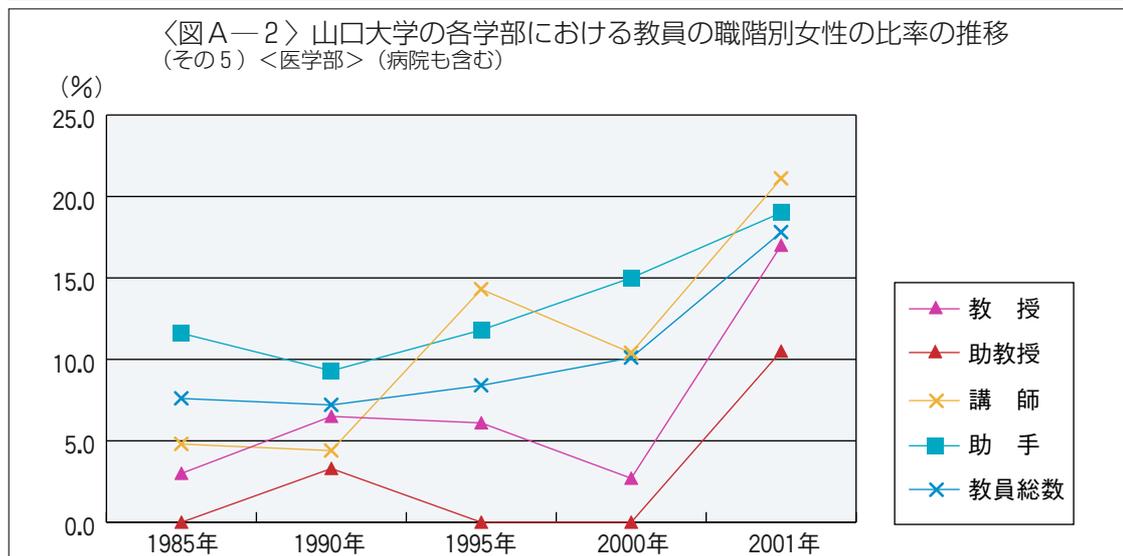
〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その4) <理学部> (単位：人，%)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助教授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (8.0)
講師	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助手	0 (0.0)	2 (10.0)	2 (10.5)	3 (18.8)	3 (18.8)
教員総数	0 (0.0)	2 (3.2)	2 (3.0)	4 (4.8)	5 (6.1)



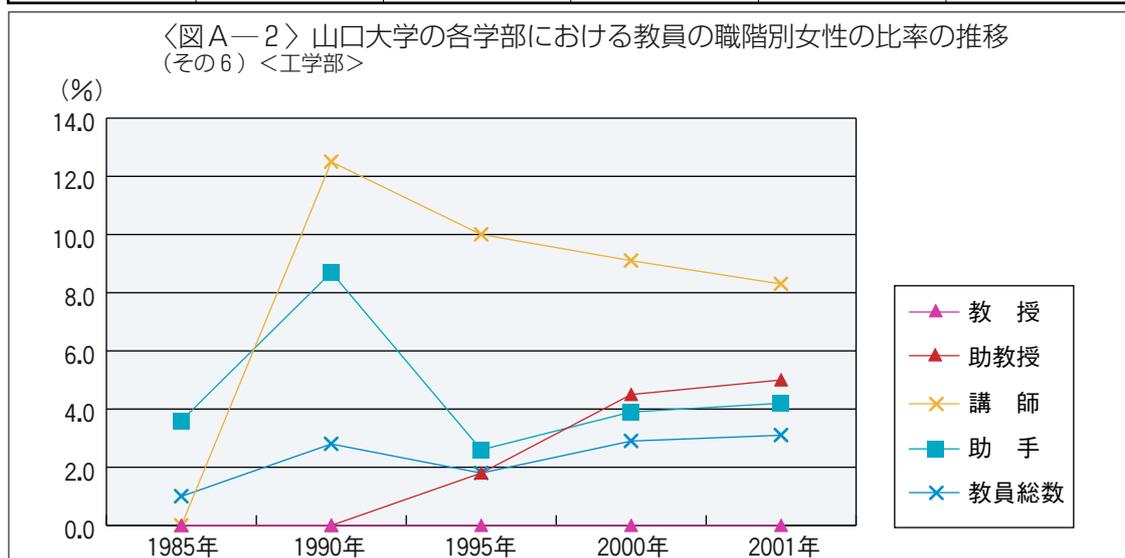
〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その5) <医学部> *病院も含む (単位：人，%)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教授	1 (3.0)	2 (6.5)	2 (6.1)	1 (2.7)	9 (17.0)
助教授	0 (0.0)	1 (3.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.5)
講師	2 (4.8)	2 (4.4)	2 (14.3)	5 (10.4)	12 (21.1)
助手	14 (11.6)	12 (9.3)	8 (11.8)	18 (15.0)	23 (19.0)
教員総数	17 (7.6)	17 (7.2)	12 (8.4)	24 (10.1)	48 (17.8)



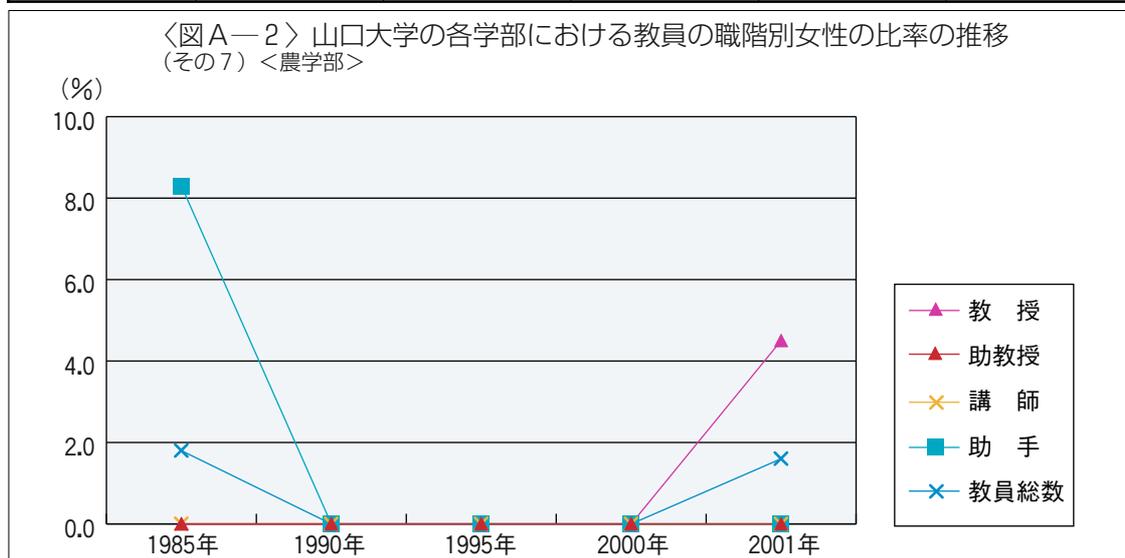
〈図A-2〉山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その6) <工学部> (単位:人, %)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助教授	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	3 (4.5)	3 (5.0)
講師	0 (0.0)	1 (12.5)	1 (10.0)	1 (9.1)	1 (8.3)
助手	1 (3.6)	2 (8.7)	1 (2.6)	2 (3.9)	2 (4.2)
教員総数	1 (1.0)	3 (2.8)	3 (1.8)	6 (2.9)	6 (3.1)



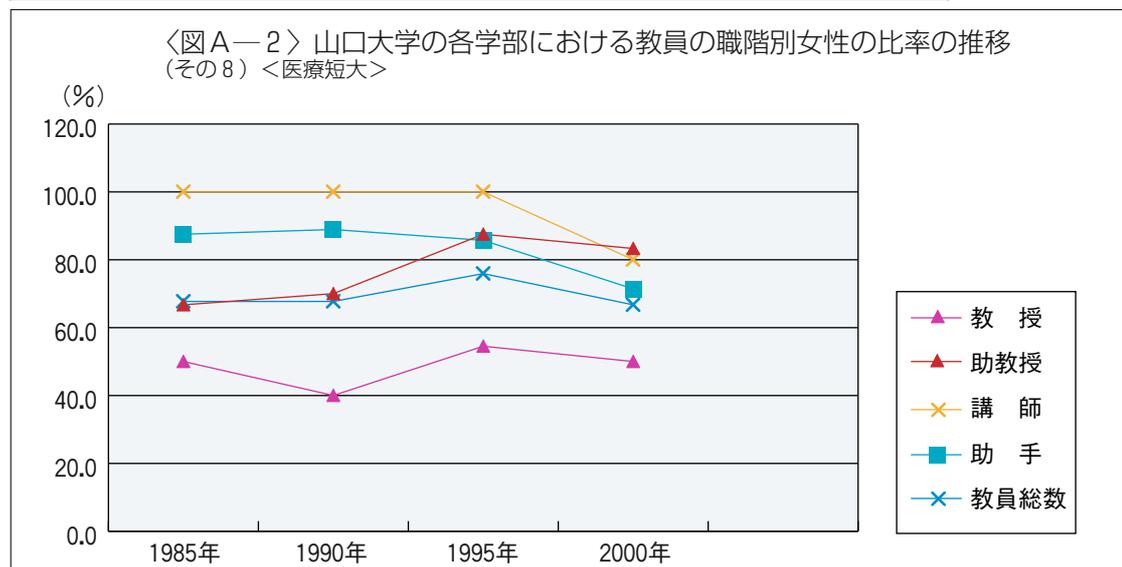
〈図A-2〉山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
(その7) <農学部> (単位:人, %)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
教授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助教授	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)
講師	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
助手	1 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
教員総数	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)



〈図A-2〉 山口大学の各学部における教員の職階別女性の人数及び比率の推移
 (その8) <医療短大> (単位：人、%)

	1985年	1990年	1995年	2000年
教授	6 (50.0)	4 (40.0)	6 (54.5)	6 (50.0)
助教授	6 (66.7)	7 (70.0)	7 (87.5)	5 (83.3)
講師	2 (100.0)	2 (100.0)	3 (100.0)	4 (80.0)
助手	7 (87.5)	8 (88.9)	6 (85.7)	5 (71.4)
教員総数	21 (67.7)	21 (67.7)	22 (75.9)	20 (66.7)



〈図A-1〉の女性教員の比率の推移を学部別に見たのが〈図A-2〉である。文科系の学部比べて理工系の学部の女性教員の比率が、この16年間依然として低いことがわかる。

〈表A-7〉山口大学における行政職（一）職員の在職状況内訳（2001年5月1日現在）

（単位：人、％）

	計	男性	女性	
課長（事務長）以上	34	33	1	2.9
課長補佐・専門員	31	30	1	3.2
係長・専門職員	142	130	12	8.5
主任	108	59	49	45.4
その他の一般職員	115	80	35	30.4
計	430	332	98	22.8

行政職（一）職員の在職状況は、一般職員の女性比率が30.4%、主任45.4%であるのに対し、課長以上が2.9%、課長補佐・専門員が3.2%、係長・専門職員が8.5%と、係長・専門職員以上の上位職階において、女性職員の比率が極端に低い。

〈表A-8〉行政職（一）職員の性別・年齢別・職階別在職状況（2001年5月1日現在）

事務系職員

（単位：人、％）

	係長以上				主任・一般職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	118	111	7	6%	38	4	34	90%	156	115	41	26%
40～49才	19	19	0	0%	38	29	9	24%	57	48	9	16%
30～39才	1	1	0	0%	62	45	17	27%	63	46	17	27%
18～29才	0	0	0		48	30	18	38%	48	30	18	38%
計	138	131	7	5%	186	108	78	42%	324	239	85	26%

※ 係長以上とは、事務長、補佐、専門職、主任専門職員、専門職員と係長であり、部課長を除いた数である。

図書系職員

	係長以上				一般図書系職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	9	6	3	33%	4	3	1	25%	13	9	4	31%
40～49才	2	2	0	0%	3	3	0	0%	5	5	0	0%
30～39才	0	0	0		2	1	1	50%	2	1	1	50%
18～29才	0	0	0		1	0	1	100%	1	0	1	100%
計	11	8	3	27%	10	7	3	30%	21	15	6	29%

※ 係長以上とは、図書館専門員と係長であり、部課長を除いた数である。

施設系職員

	係長以上				主任・施設系職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	3	3	0	0%	2	2	0	0%	5	5	0	0%
40～49才	5	5	0	0%	2	2	0	0%	7	7	0	0%
30～39才	0	0	0		2	2	0	0%	2	2	0	0%
18～29才	0	0	0		6	6	0	0%	6	6	0	0%
計	8	8	0	0%	12	12	0	0%	20	20	0	0%

※ 係長以上とは、専門員と係長であり、部課長を除いた数である。(補佐は事務系職員に含む。)

教室系技術職員

	技術専門職員				技術職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	10	8	2	20%	0	0	0		10	8	2	20%
40～49才	7	5	2	29%	1	1	0	0%	8	6	2	25%
30～39才	7	7	0	0%	7	7	0	0%	14	14	0	0%
18～29才	0	0	0		14	9	5	36%	14	9	5	36%
計	24	20	4	17%	22	17	5	23%	46	37	9	20%

薬剤師等

	役付職員				その他				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	15	5	10	67%	6	4	2	33%	21	9	12	57%
40～49才	8	6	2	25%	11	5	6	55%	19	11	8	42%
30～39才	8	4	4	50%	12	7	5	42%	20	11	9	45%
18～29才	0	0	0		13	6	7	54%	13	6	7	54%
計	31	15	16	52%	42	22	20	48%	73	37	36	49%

※ 役付職員とは、副薬剤部長(教官を除く。)、薬剤主査、診療放射線技師長、副診療放射線技師長、主任診療放射線技師、臨床検査技師長、副臨床検査技師長、主任臨床検査技師、栄養管理室長のことである。

その他とは、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士等である。

看護職員

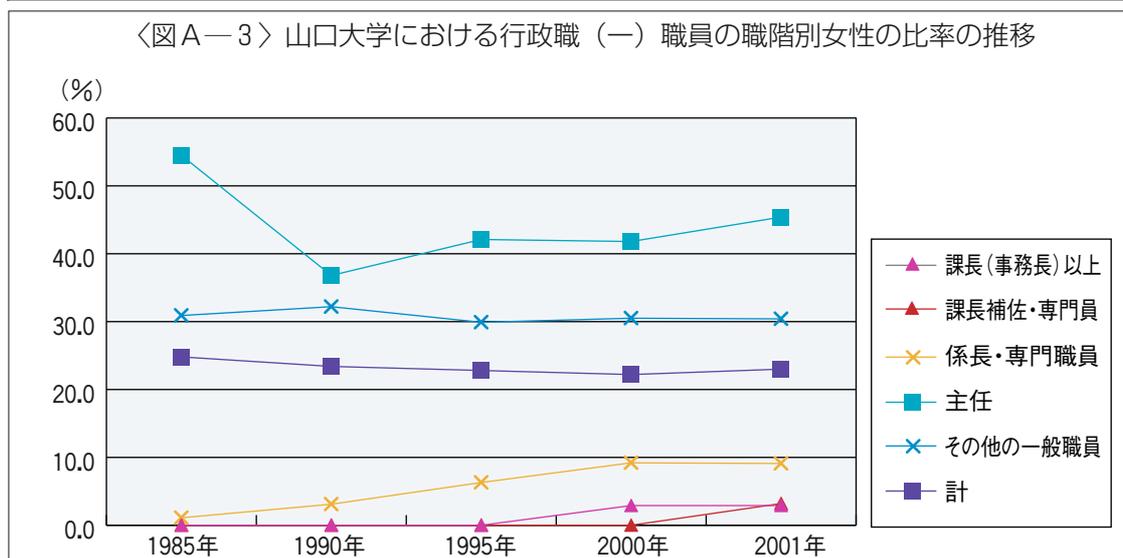
	副看護婦長以上				看護婦等				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50～60才	42	0	42	100%	26	2	24	92%	68	2	66	97%
40～49才	37	0	37	100%	41	2	39	95%	78	2	76	97%
30～39才	1	0	1	100%	108	2	106	98%	109	2	107	98%
18～29才	0	0	0		135	2	133	99%	135	2	133	99%
計	80	0	80	100%	310	8	302	97%	390	8	382	98%

※ 副看護婦長以上とは、看護部長、副看護部長、看護婦長、副看護（助産）婦長のことである。

〈表A-8〉で、行政職（一）職員の性別・年齢別・職種別在職状況を見ると、50～60才までに係長以上に昇任できる女性職員はごくわずか、女性職員の昇任のほとんどが主任止まりであることがわかる。

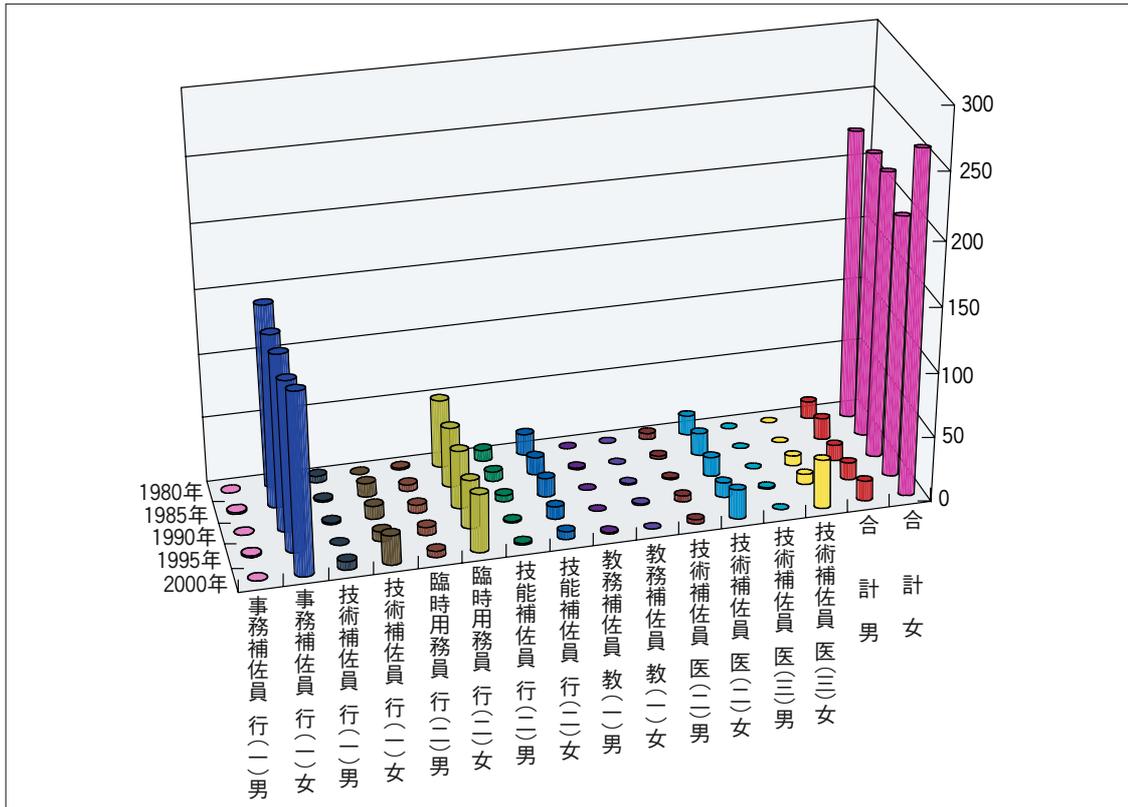
〈図A-3〉 山口大学における行政職（一）職員の職階別女性の人数及び比率の推移（2001年5月1日現在）
（単位：人、%）

	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
A 課長（事務長）以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (2.9)
B 課長補佐・専門員	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)
C 係長・専門職員	1 (1.1)	3 (3.1)	6 (6.3)	13 (9.2)	13 (9.1)
D 主任	30 (54.5)	28 (36.8)	32 (42.1)	46 (41.8)	49 (45.4)
E その他の一般職員	88 (30.9)	77 (32.2)	46 (29.9)	36 (30.5)	35 (30.4)
F 計	119 (24.8)	108 (23.4)	84 (22.8)	96 (22.2)	99 (23.0)



行政職（一）職員の女性比率の推移を見ると、ここ5,6年の間でようやく係長・専門職員に昇任する女性職員が出始めているが、2001年で9.1%と、依然としてその比率はごく低い。また、課長補佐・専門員、課長以上に昇任できる女性はここ16年の間に皆無に近い。

〈図A-4〉 日々雇用・時間雇用の補佐員等の人数の推移（2001年5月1日現在）



(単位：人)

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年
事務補佐員 行(一)男	0	1	0	1	0
事務補佐員 行(一)女	142	134	134	131	141
技術補佐員 行(一)男	0	1	1	0	5
技術補佐員 行(一)女	4	11	8	6	18
臨時用務員 行(二)男	1	4	5	5	4
臨時用務員 行(二)女	51	46	45	39	45
技能補佐員 行(二)男	7	6	4	1	1
技能補佐員 行(二)女	15	14	12	8	5
教務補佐員 教(一)男	0	1	0	0	1
教務補佐員 教(一)女	0	0	1	1	0
技術補佐員 医(二)男	4	2	1	4	3
技術補佐員 医(二)女	13	15	13	10	20
技術補佐員 医(三)男	0	0	0	1	0
技術補佐員 医(三)女	0	0	7	7	34
合計 男	12	15	11	12	14
合計 女	225	220	220	202	263

一方、日々雇用や時間雇用の補佐員の男女別人数の推移を見ると、ここ20年来女性比率が90%以上である状況が継続している。

〈表A-9〉 学部別学生数及び女性比率（2001年5月1日現在）

（単位：人、％）

学 部	男 性	女 性	女性比率
人 文 学 部	342	544	61.4
教 育 学 部	442	649	59.5
経 済 学 部	1,199	574	32.4
理 学 部	728	258	26.2
医 学 部	380	322	45.9
工 学 部（昼）	2,244	357	13.7
工 学 部（夜）	368	23	5.9
農 学 部	340	324	48.8
合 計	6,043	3,051	33.5

〈表A-10〉 大学院別学生数及び女性比率（2001年5月1日現在）

（単位：人、％）

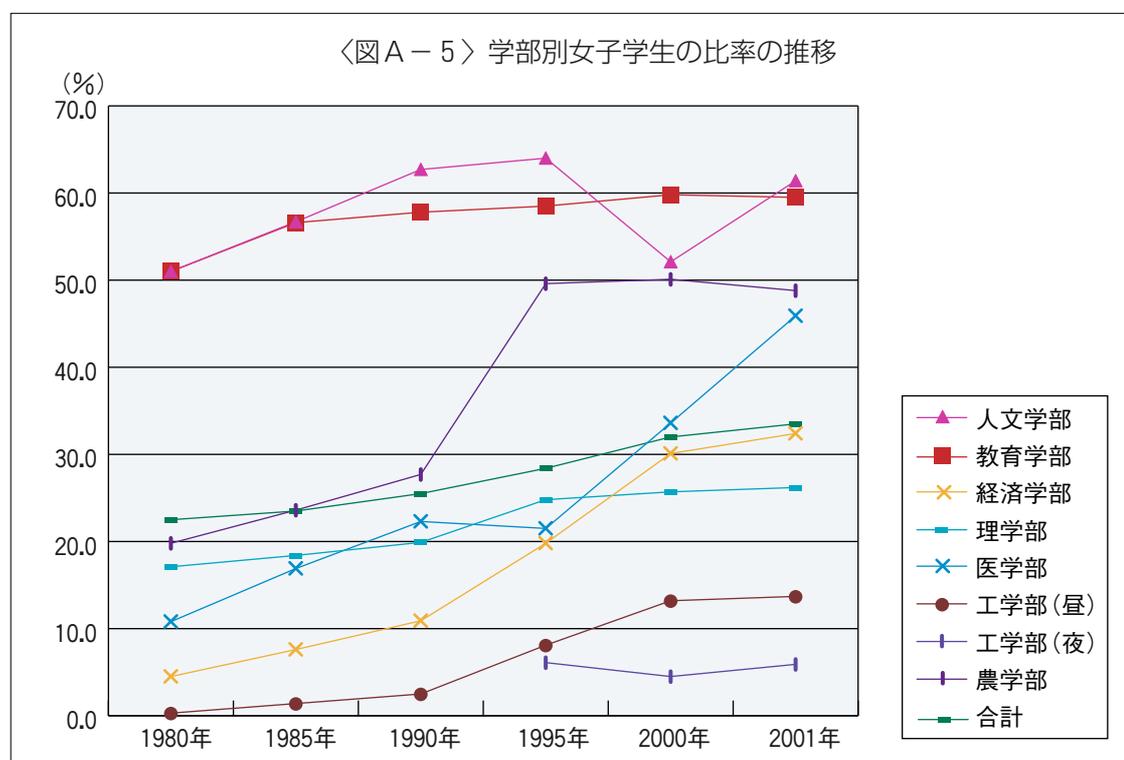
大 学 院	男 性	女 性	女性比率
人 文 科 学（M）	18	25	58.1
教 育 学（M）	52	49	48.5
経 済 学（M）	21	17	44.7
医 学（医D）	174	70	28.7
医（医工系M）	27	5	15.6
医（医工系D）	12	4	25.0
理 工 学（M）	658	81	11.0
理 工 学（D）	153	11	6.7
農 学（M）	53	33	38.4
東 ア ジ ア（D）	8	7	46.7
連 合 獣 医（D）	62	19	23.5
合 計	1,238	321	20.6

学部別及び大学院別学生の女性比率を見ると、文科系の学部及び大学院に比べて、農学部及び農学研究科を除く理工系の学部及び大学院の方が女性比率が低いことがわかる（〈表A-9〉、〈表A-10〉）。

〈図A-5〉 学部別女子学生数及び比率の推移 (2001年5月1日現在)

(単位: 人, %)

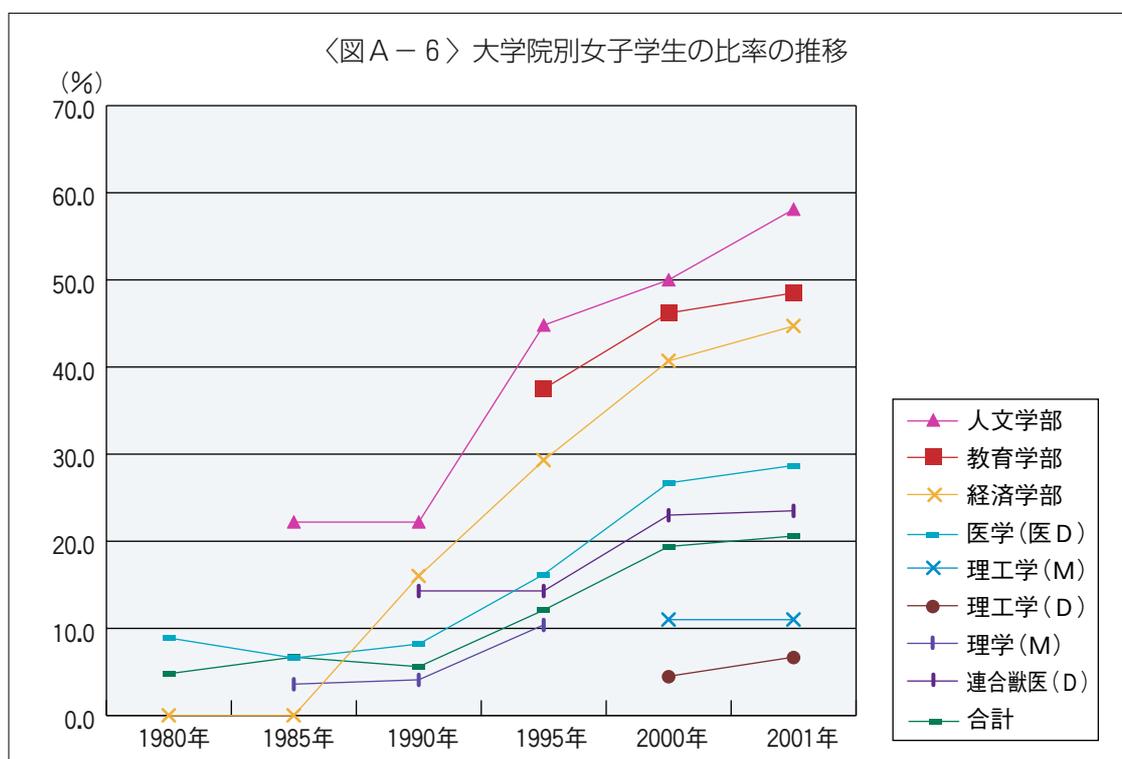
学 部	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
人文学部	268 (51.0)	428 (56.7)	529 (62.7)	577 (64.0)	557 (62.1)	544 (61.4)
教育学部	767 (51.0)	728 (56.6)	743 (57.8)	779 (58.5)	686 (59.8)	649 (59.5)
経済学部	60 (4.5)	114 (7.6)	184 (10.9)	355 (19.8)	541 (30.1)	574 (32.4)
理学部	92 (17.1)	146 (18.4)	167 (19.9)	245 (24.8)	256 (25.7)	258 (26.2)
医学部	78 (10.8)	124 (16.9)	150 (22.3)	135 (21.5)	200 (33.6)	322 (45.9)
工学部(昼)	4 (0.3)	22 (1.4)	46 (2.5)	211 (8.1)	351 (13.2)	357 (13.7)
工学部(夜)	—	—	—	24 (6.1)	19 (4.5)	23 (5.9)
農学部	95 (19.8)	112 (23.6)	161 (27.7)	305 (49.6)	325 (50.1)	324 (48.8)
合 計	1,468 (22.5)	1,674 (23.5)	1,980 (25.5)	2,631 (28.4)	2,935 (32.0)	3,051 (33.5)



〈図A-6〉 大学院別女子学生数及び比率の推移 (2001年5月1日現在)

(単位: 人, %)

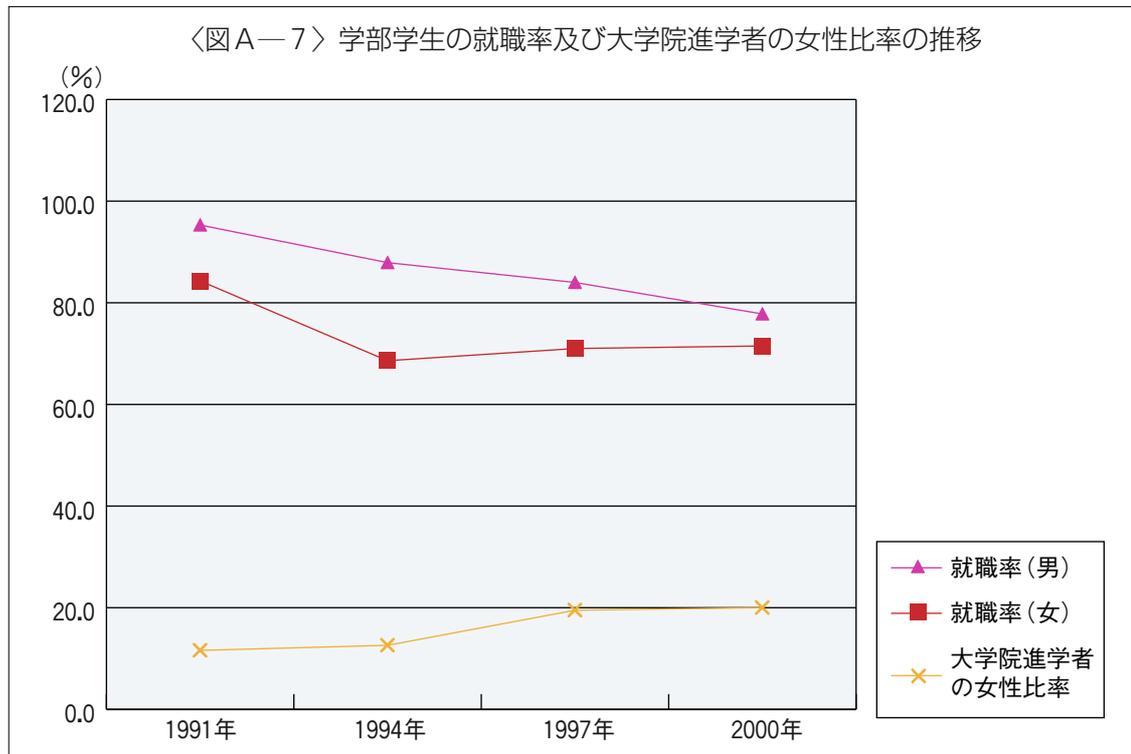
大学院	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2001年
人文科学(M)	—	2 (22.2)	4 (22.2)	13 (44.8)	21 (50.0)	25 (58.1)
教育学(M)	—	—	—	21 (37.5)	49 (46.2)	49 (48.5)
経済学(M)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (16.0)	12 (29.3)	11 (40.7)	17 (44.7)
医学(医D)	7 (8.9)	8 (6.6)	12 (8.2)	30 (16.2)	72 (26.7)	70 (28.7)
理工学(M)	—	—	—	—	79 (11.0)	81 (11.0)
理工学(D)	—	—	—	—	7 (4.5)	11 (6.7)
理学(M)	—	2 (3.6)	3 (4.1)	11 (10.4)	—	—
工学(M)	1 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (2.0)	—	—
農学(M)	3 (7.9)	16 (19.2)	2 (6.3)	15 (33.3)	30 (35.7)	33 (38.4)
連合獣医(D)	—	—	3 (14.3)	13 (14.3)	20 (23.0)	19 (23.5)
合計	11 (4.8)	28 (6.7)	28 (5.6)	126 (12.1)	289 (19.4)	321 (20.6)



しかし、学部別及び大学院別学生の女性比率は、すべての学部でここ20年来増加し、特に経済、理、工、農の学部及び大学院での女性比率の伸びが著しい。この結果、学生全体に占める女性比率も1980年に学部学生で22.5%、大学院学生で4.8%であったのが、2001年にはそれぞれ33.5%、20.6%へと急増している。(〈図A-5〉、〈図A-6〉)

〈図A-7〉学部学生の就職率及び大学院進学者の女性比率の推移（2001年5月1日現在）
 （単位：人、％）

	1991年	1994年	1997年	2000年
就職率（男）	95.3	87.9	84.0	77.8
就職率（女）	84.3	68.6	71.0	71.5
大学院進学者の女性比率	11.6	12.6	19.5	20.0



学部学生の就職率及び女子学生の大学院進学率の推移は、1990年代から続く不況の影響で男女ともに就職率は急激に落ち込んでいる。この一方、大学院進学者の女性比率は、この10年間で11.6%から20.0%に急激に増えている。

B. 山口大学における男女共同参画推進のための取り組み状況

〈図B-1〉 男女共同参画のための各学部の取り組み状況（2001年5月1日現在）

※ 2001年に、国立大学協会がすべての国立大学に対して実施した「男女共同参画の推進状況に関する調査」の設問を参考に、山口大学における学部ごとの男女共同参画推進のための取り組み状況を整理したのが〈図B-1〉である。

1. 教員の採用における公募システムの確立 実施中 検討中 未検討
 2. 女性教員の増加を目指した大学(部局)の達成目標の設定 実施中 検討中 未検討
 3. 本務校のない非常勤教員の処遇。研究環境の改善の対策 実施中 検討中 未検討
 4. 公募システムと公募方法（複数回答）
 - 全て公募 公募していないものもある 公募していない
 - ホームページ 学会誌 JRECIN（研究者人材データベース）
 - 関係機関に公募情報を公示 その他（記入 ）
 5. 女性教員増加を目指した具体的な方策の実施または検討（複数回答）
 - 達成目標とタイムテーブルの策定（内容 ）
 - 教員の採用における女性候補者を積極的に発掘する方法を実施または検討した(している)
 - 若手女性研究者のキャリア形成の支援（内容 ） 特にしていない
 6. 研究における男女共同参画の推進と女性研究者の研究環境の改善に関する設問
 - 大学内、大学間共同プロジェクト等への女性研究者の参加
 - 補助業務からの解放や処遇面における差別的慣行の撤廃指示
 - キャリア形成状不利な処遇を受けている事例について調査とその改善措置
 - その他（記入 ） 特にしていない
 7. 学内保育制度（複数回答）
 - ある 申請または検討中の新設計画がある
 - その他の保育支援制度がある 検討していない
1. 教員の採用における公募システムの確立



教員の採用における公募システムの確立については、人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、農学部が実施中なのに対し、工学部は検討中、医療短大は未検討と回答している。教員の採用における公募システムは、4にもみるように、すべて公募している学部は人文学部、理学部、教育学部の3学部で、公募していないものがある学部は経済学部、医学部、農学部、医療短大の4学部と多いが、工学部では公募をしていない。

2. 女性教員の増加を目指した大学（部局）の達成目標の設定



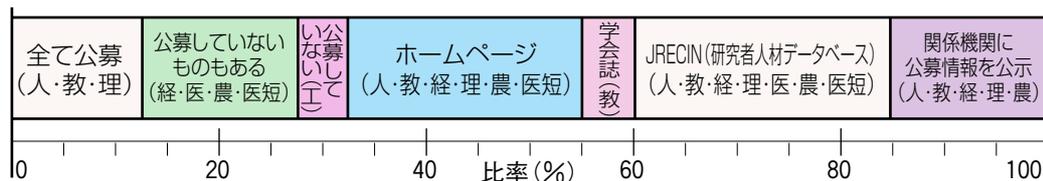
女性教員の増加を目指した各学部の達成目標の設定については、すべての学部で未検討の状況にあり、きわめて取り組みが低調である。

3. 本務校のない非常勤教員の処遇。研究環境の改善の対策



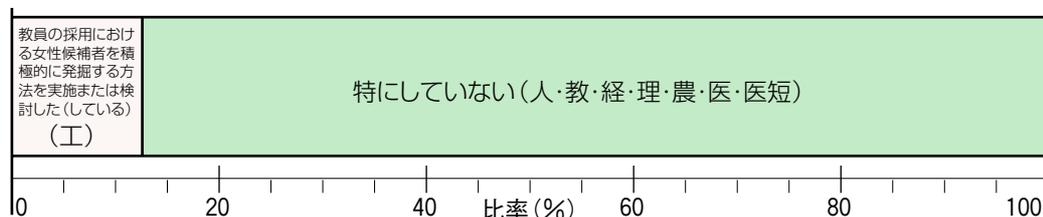
本務校のない非常勤教員の処遇・研究環境の改善の対策についても、すべての学部で未検討の状況にあり、きわめて取り組みが低調であると言わざるを得ない。

4. 公募システムと公募方法（複数回答）



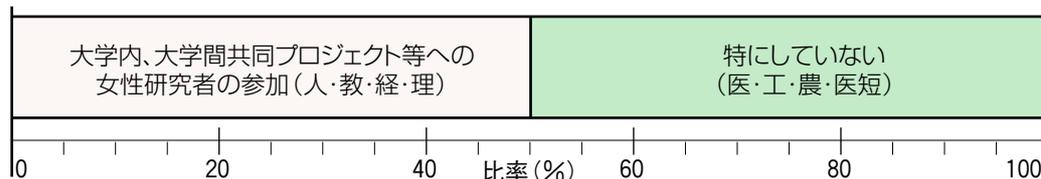
公募先は、大学のホームページの他に、ほとんどの学部がJRECIN（研究者人材データベース）や関係機関に公募情報を公示している。

5. 女性教員増加を目指した具体的な方策の実施または検討（複数回答）



女性教員の増加を目指した具体的な方策の実施または検討については、工学部をのぞくすべての学部で未検討の状況にあり、きわめて取り組みが低調である。

6. 研究における男女共同参画の推進と女性研究者の研究環境の改善に関する設問



研究における男女共同参画の推進と女性研究者の研究環境の改善を行っている学部は、人文学部、教育学部、経済学部、理学部であるのに対し、特にしていないのは、医学部、工学部、農学部、医療短大となっている、文科系学部の積極的姿勢に比較し、多くの理工系学部の消極性が見てとれる。

7. 学内保育制度（複数回答）



山口大学には山口大学医学部附属病院保育所が、宇部地区に1968年4月に設置されたが、利用対象者は主に医学部の看護婦、職員、その他となっており、全学の教職員が利用できる施設は整備されていない（表B-3参照）。

〈表B-1〉 育児休業制度及び介護休暇制度の利用者数
(2000年度計)

	教員 (内女性)	職員 (内女性)
育児休業制度		
部分休業	0人 (0人)	0人 (0人)
育児休業	0人 (0人)	9人 (9人)
介護休暇制度	2人 (42日間) 注)	

※ 介護休暇制度利用者については教員、職員の区別をしていない。

育児休業制度の利用者数（2000年度計）は、部分休業はなく、育児休業は女性職員の9人にとどまっている。介護休暇制度の利用者数もわずか2人（計42日間）となっている。

〈表B-2〉山口大学における女性学、ジェンダー学関連授業の開講状況 (2001年度開講分)

部局名	科目等名	テ ー マ	担当教官名	受講者数 (内女性人数)
共通教育科目	倫 理 学	「正義」概念の再検討の一つとして、ジェンダーという背景に光をあてる。	上野 修	30 (5)
共通教育科目	思想と文化 －性をめぐる 今日的状況－	身体的性差によって性を二つに分ける性二元論に対して、身体的性差、社会的性差、性的志向性、性自認等を考慮した多様な性の有り様について考察する。	山本真弓	43 (23)
人文学部	社会学演習 －現代日本の 家族と地域社会－	現代家族をめぐる諸問題（家族の機能、ジェンダーと家族、配偶者選択と恋愛、離婚など）	横田尚敏	11 (5)
人文学部	英語学特講	言語における人称・性・数の一致及び格の現象	寺田 寛	14 (5)
経済学部	地域福祉社会学	地域社会と福祉の関わりについて、高齢者を取り巻く状況を中心に論じている。現在、日本における要介護高齢者の7割が家族介護を受け、その家族というのも約8割が妻や嫁などの女性である。また、施設や訪問介護の担い手も、そのほとんどが女性、という現状を考察する上で、ジェンダー視点は不可欠な分析手段である。これまで、「家族」「高齢者」「介護者」などという性中立的な言葉で表現されていた事柄に、新たにジェンダー視点を持ち込むことで、より具体的な問題の所在や構造に近づくことができる。	鍋山祥子	90 (15)
教育学部	社会学 －ジェンダーの 社会学－	我々が日常的に当然と見なしている社会の諸現象をジェンダーの視点からとらえ直す。さらに、現代日本社会における性別役割意識、性別分業の問題についても取り上げる。	山本薫子	20 (10)
教育学部	体育社会学 －スポーツと ジェンダー－	ジェンダーの視点から、スポーツ及びスポーツに関する解説書などの特徴・問題点を検討する。	三好洋二	20 (10)
医療短大	母性看護学	主に女性学の部分で、思春期の女性についてふれる。	深川ゆかり	78 (72)
医療短大	臨床母性看護学	女性が子供を産み育てて行く時の、現在の日本の家族の役割特徴など。周産期の女性のケア。	深川ゆかり	78 (72)

山口大学におけるジェンダー関連科目は、〈表B-2〉に見るようにまだ非常に少ない。特に全学の共通教育科目としてはわずか2科目を数えるのみである。

〈表B-3〉 保育施設設置状況

2001年5月1日現在

	内 容	備 考
保 育 施 設 名	山口大学医学部附属病院保育所 (たんぼぼ保育園)	
施 設 (敷地、建物、施設など)	267㎡ (鉄筋コンクリート1階建ての1階)	無認可
児 童 数 (対 象 年 齢 範 囲)	28人 (産休明けから満4歳に達した年度末)	
職 員 数 (職 位 ・ 職 種 別)	9人 (保育士8人、給食1人)	
保 育 時 間	7:30~18:00 (延長19:00まで)	
大学などからの援助	人件費(日々雇用1人、パート1人)、 物件費	2001年度国費助成分21.1%
利 用 対 象 者	看護婦、職員、その他	
設 置 年	1968年4月	

山口大学には山口大学医学部附属病院保育所が、宇部地区に1968年4月に設置されたが、利用対象者は主に医学部の看護婦、職員、その他となっており、全学の教職員が利用できる施設は整備されていない。